

書塾の仲間たち

第239回

小川会（東京都小平市）



●書塾からひとこと●
「小川会」は平成十五年に東京都小平市の自宅で私が始めた書道教室です。昨年の転居を機に、今は同じ市内の公共施設をお借りして保護者の方々にもご協力をいただきながらお稽古を続けています。

始めた当初から月刊「書写書道」を利用して稽古をしてきましたが、学習指導要領に準拠した内容や美しい文字のお手本など、迷うことなく指導に当たることができています。子どもたちは毎月の「書写書道」の課題はもちろんのこと、高円宮杯日本武道館書写道大展覧会や全日本書初め大展覧会にも出品しています。中でもお正月に日本武道館で行われる席書大会への参加は、普段味わうことのできない緊張感や高揚感を体感でき、何にも替えがたい、とても良い経験になっていきます。また、小平市の書道展にも参加して、地域とのつながりも大切に活動しています。

大人の方々は、子どもの頃に習っていた方や、全く初めての方などさまざままで、新たな楽しみを見つけることができたと、いきいきと、とても熱心にお稽古に励んでいらっしゃいます。

お稽古に足を運んでくださる皆さん、書の楽しさに触ることで、日々の生活の中で彩りとなり、人生の中で何かの学びになれば幸いと思い、私自身も一層精進してまいりたいと思います。

小川会

大崎 悅子

※書塾に連絡したい方は事務局へお問い合わせください。

私が生まれた地域は筆作りのさかんな町です。四歳の時に書道を知り、自分も教わりたいと思って習い始めました。初めて筆をにぎった時に、むずかしさだけでなく、力加減で書の表情が変わることにおもしろさを感じました。それが書道を好きになつたきっかけです。

学年が上がるにつれて、書き方がむずかしくなりました。頭で分かっていても書に表現できず、くやしさで悲しくなることもあります。先生は出来ていないところだけでなく、良いところも教えてくれます。先生にほめてもらえると、次はもっと集中してきれいに書こうとがんばりました。家族や友だちは、わたしの書を見てほめてくれます。うれしい気持ちもありますが、もつとうまく書けた作品を見てもらいたいという気持ちもあります。字をきれいに書けるようになるために習い始めましたが、今は書道にゴールはないと考えています。大好きな書道を大人になるまで続けて成長し、書写書道の「てっぺん」に行くことが目標です。

今、苦戦していることは筆の線に強弱をつけることです。いつも先生から、筆の太細の差がついていないと言われます。何度も書くうちに、筆の強弱のコツが少しずつ分かつてきただけでなく、書道の歴史についてもこれから学びたいと思っています。学校のノートもいつもいねいに書くよう心がけています。

私の将来の夢は、子ども達に書道の楽しさや美しさを教えることです。そのために、技術だけでなく、書道の歴史についてもこれから学びたいと思っています。小さな努力も続けていくことで、一歩ずつわたしの夢へと近づいていくんだと思って、がんばろうと思います。

書道の「てっぺん」を目指して

広島県熊野町立熊野第一小学校五年 勝部 夢望



私と書写書道 第239回

書道の楽しさを味わうために

静岡県裾野市立東中学校二年 原川 紗歩



私は、六歳の時、祖母の勧めで書道を習い始めました。両親からも字は綺麗な方が絶対良いよと言われ、書道教室に入ろうと決意しました。教室の雰囲気に慣れるまで、最初はとても緊張したことを覚えています。また、お手本のようなきれいな字を書けず、嫌になってしまいます。でも、先生が優しく細かいところまで教えてくださり、周りの友だちの頑張る姿を見たりしているうち、「私も頑張らないとダメだ!」という気持ちが湧いてきて、お手本をしっかりと見ることが大切だということにも気づきました。

学校でたくさん賞状をいただいたことも励みになっています。私は小学校二年生の時から書初めなどのコンクールで賞状をいただきました。頑張って書いて良かったという気持ちや次も頑張ろうという気持ちが高まってきます。賞状を家に持ち帰ると、家族がたくさん褒めてくれることもすごく嬉しく、書道を習つて良かったと実感できます。友だちにも「字が綺麗だね」と言ってもらえる機会が増えて、そのたびにとても嬉しく、誇らしい気持ちになります。

ここまで字を綺麗に書けるようになったのは、書道教室の先生や友だちのおかげです。他にも、周りのたくさんの人の支えがあつて今も書道を続けられています。私は字を書くことがとても好きです。最初は上手に書くことができなくとも、お手本と自分の字を比べて直していくうちにだんだんお手本に近づいていくことが字を書いている中で一番楽しいです。これからも、書道の楽しさや素晴らしさをたくさん経験し、味わえるように、頑張ろうと思います。